

博士課程教育リーディングプログラム ~~中間評価事後評価~~ヒアリング実施要領 (案)平成〇〇年〇月〇日
博士課程教育リーディングプログラム委員会

1. 目的

ヒアリングは、~~独立行政法人日本学術振興会~~博士課程教育リーディングプログラム委員会類型別審査・評価部会（以下「部会」という。）委員が~~当該採択プログラムを実施する大学~~（以下「大学」という。）の関係者との質疑応答を行うことにより、書面評価~~や現地調査等~~における不明点等を明らかにし、評価に資することを目的とする。

2. 実施主体

実施主体は、部会とする。

~~4.3. 参加者~~

~~[実施者]~~

~~部会委員、プログラムオフィサー（必要に応じて参加）~~

~~[説明者（大学側）大学]~~

~~原則として、全体責任者（学長）、プログラム責任者、プログラムコーディネーターを含む4名（部会の判断により適宜変更する場合がある。）~~

~~4.4. 実施方法~~

~~実施者は、採択プログラム大学より、書面評価~~や現地調査結果~~等に基づき事前に示す質問事項への回答を含め、評価項目に沿ったプログラムの進捗状況の詳細等中間評価結果を踏まえた対応や当初の目的の達成に向けた取組の進捗状況等について~~の~~説明を受けるとともに、意見交換質疑応答を行う。~~

~~4. 参加者~~

~~[実施者]~~

~~部会~~

~~[説明者（大学側）]~~

~~原則として、学長、プログラム責任者、プログラムコーディネーターを含む4名~~

5. 時間配分実施項目

- ① プログラムコーディネーターによるプログラムの進捗状況等の説明・・・・・・・・・・25分
- ② 質疑応答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25分
- ③ ~~まとめ個別審議・評価書作成~~・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10分

※時間配分は一応の目安であり、~~進捗状況等部会~~の判断により適宜変更する場合がある。

6. ~~ヒアリングに当たっての留意事項実施後の対応~~

~~（1）大学側の説明（2.5分）が終了してから、質疑応答を行う。~~

~~（2）質疑応答（2.5分）では、効率性の観点から、大学側の説明等でさらに明確にする必要があると思われる点等を中心に、端的かつ簡潔に質問することとする。~~

~~（3）各々のヒアリング終了後、大学側からの説明や質疑応答を踏まえ、各①部会の委員は、別紙の「ヒアリング審査表評価書」を作成し、部会において合議審議の上、ヒアリング結果を取りまとめる。~~

~~（4）大学側の説明2.5分、質疑応答2.5分は厳守し、大学側の説明が2.5分以内で終了しても、残り時間を質疑応答の時間に振り替えることはしない。②部会は、ヒアリングによって明らかにならなかった点や新たに生じた不明点等がある場合には、必要に応じて大学に対して書面による事情聴取を行うことができる。~~

7. ~~ヒアリング出席者大学への注意事項~~

（1）~~大学説明者~~は、ヒアリングの進行状況により開始時間が早まることを想定して、当該プログラムのヒアリング開始時間30分前までに大学控室に参集すること。

（2）説明時間が限られているため、説明はできるだけ簡潔に行うこと。

（3）ヒアリング会場には、液晶プロジェクター、パソコン(Windows)及び接続ケーブル(D-sub15ピンケーブル、3列ピン)、変換アダプター(HDMI to VGA(D-sub))が用意してあるので、説明時に利用することができる。

（4）ヒアリング時に使用する説明資料がある場合は、ヒアリング当日に必要な部数（A4判サイズとする。）を

用意すること。（詳細は別途通知する。）
(5) ヒアリング内容の録音及び録画は、禁止する。

~~8. ヒアリング実施後~~

~~部会は、ヒアリングによっても明らかにならなかった点、あるいは新たに生じた不明点等のために、必要に応じて書面による質疑応答を実施することができる。~~

~~9. ヒアリングに係る事務担当~~

~~独立行政法人日本学術振興会人材育成事業部大学連携課~~

~~博士課程教育リーディングプログラム委員会事務局~~

~~〒102-0083 東京都千代田区麹町5-3-1~~

~~電話：03-3263-1758~~

~~Fax：03-3237-8015~~

~~Email：de-leading-jpps@jpps.go.jp~~

博士課程教育リーディングプログラム ~~中期評価~~事後評価ヒアリング評価書

委員名：

| | | | |
|--|--|---------------|--|
| 機 関 名 | | 整理番号 | |
| プログラム名称 | | | |
| プログラム責任者 | | プログラムコーディネーター | |
| 総合評価 | <input type="checkbox"/> 計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。 | | |
| | <input type="checkbox"/> 計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。 | | |
| | <input type="checkbox"/> 概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。 | | |
| | <input type="checkbox"/> 計画に沿った取組が行われておらず、十分な成果が得られているとは言えないことから、本事業の目的を達成できなかったと評価する。 | | |
| <p><コメント欄></p> <p>評価要項の「評価項目」に照らして、上記の水準総合評価と判断した根拠・理由等についてはできるだけ、「『博士課程教育リーディングプログラム』評価要領」における評価項目（「リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築」、「修了者の成長とキャリアパスの構築」、「事業の定着・発展」）を踏まえ記入してください。</p> <p>(優れている点)</p> <p>(改善を要する点不十分な点)</p> <p>(その他特記事項)</p> | | | |